

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2023.5.29-6.4

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。



23:13 三十人のかしらのうちのこの三人は、刈り入れのころ、アドラムの洞穴にいるダビデのところへ下って来た。ペリシテ人の一隊は、レファイムの谷間に陣を敷いていた。

23:14 そのときダビデは要害にいて、ペリシテ人の先陣はそのときベツレヘムにいた。

23:15 ダビデは切に望んで、「だれかが私に、ベツレヘムの門にある井戸の水を飲ませてくれたらよいのだが」と言った。

23:16 三人の勇士はペリシテ人の陣営を突き破って、ベツレヘムの門にある井戸から水を汲み、それを携えてダビデのところへ持って来た。しかしダビデはそれを飲もうとはせず、それを【主】の前に注いで、

23:17 こう言った。「【主】よ。そんなことをするなど、私には絶対にできません。これは、いのちをかけて行って来た人たちの血ではありませんか。」彼はそれを飲もうとはしなかった。三勇士は、そのようなことまでしたのである。

23:18 さて、ツェルヤの子ヨアブの兄弟アビシャイは三十人のかしらであった。彼は槍を振るって三百人を刺し殺し、あの三人とともに名をあげた。

23:19 彼は三十人の中で最も誉れが高かったため、彼らの長になったが、あの三人には及ばなかった。

23:20 エホヤダの子ベナヤは、カブツェエル出身で、多くの手柄を立てた力ある人であった。彼はモアブの英雄二人を打ち殺した。また、ある雪の日に、洞穴の中に降りて行って雄獅子を打ち殺した。

23:21 彼はまた、例の堂々としたエジプト人

を打ち殺した。このエジプト人は、手に槍を持っていて。ベナヤは杖を持ってその男のところへ下って行き、エジプト人の手から槍をもぎ取って、その槍で彼を殺した。

23:22 エホヤダの子ベナヤはこれらのものでして、三勇士とともに名をあげた。

23:23 彼はあの三十人の中でも最も誉れが高かったが、あの三人には及ばなかった。ダビデは彼を自分の護衛長にした。

23:24 ヨアブの兄弟アサエルは、例の三十人とともにいた。ベツレヘム出身のドドの子エルハナン。

23:25 ハロデ人シャンマ。ハロデ人エリカ。

23:26 ペレテ人ヘレツ。テコア人イケシュの子イラ。

23:27 アナトテ人アビエゼル。フシャ人メブナイ。

23:28 アホアハ人ツアルモン。ネトファ人マフライ。

23:29 ネトファ人バアナの子ヘレブ。ベニヤミンのギブア出身のリバイの子イタイ。

23:30 ビルアトン人ベナヤ。ガアシユの谷の出であるヒダイ。

23:31 アルバト人アビ・アルボン。バルフム人アズマウエテ。

23:32 シャアルビム人エルヤフバとヨナタン、ヤシェンの子たち。

23:33 ハラル人シャンマ。アラル人シャラルの子アヒアム。

23:34 マアカ人アハスバイの子エリフェレテ。ギロ人アヒトフェルの子エリアム。

23:35 カルメル人ヘツライ。アラブ人パアライ。

23:36 ツォバ出身のナタンの子イグアル。ガド人バニ。

23:37 アンモン人ツェレク。ツェルヤの子ヨアブの道具持ち、ベエロテ人ナフライ。

23:38 エテル人イラ。エテル人ガレブ。

23:39 ヒッタイト人ウリヤ。合計三十七人。

主の御計画のために危険などのリスクを冒してでも奮闘する人は、ここにあるように必ず主の記録に覚えられます。ダビデは自分のために持って来られた水でさえ、あまりの尊さに自分は飲む資格がないと思えたほどです。主のための奮闘はすべて主ご自身にさげられているのです。主のために永遠に残る功績のために奮闘しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 火曜

Ⅱ サムエル



24:1 さて、再び【主】の怒りがイスラエルに対して燃え上がり、ダビデをそそのかして、彼らに向かわせた。「さあ、イスラエルとユダの人口を数えよ」と。

24:2 王はともにいた軍の長ヨアブに言った。「さあ、ダンからベエル・シェバに至るまでのイスラエルの全部族の間を歩き巡り、民を登録し、私に民の数を知らせよ。」

24:3 ヨアブは王に言った。「あなたの神、【主】が、この民を百倍にも増やしてくださいますように。わが主、王の目が、親しくこれをご覧になりますように。ところで、わが主、王は、なぜこのようなことを望まれるのですか。」

24:4 しかし、ヨアブと軍の高官たちへの王のことは激しかった。ヨアブと軍の高官たちは、イスラエルの民を登録するために王の前から出て行った。

24:5 彼らはヨルダン川を渡って、ガドの谷の真ん中にある町、ヤゼルに向かって右側にあるアロエルに宿営し、

24:6 ギルアデとタフティム・ホデシの地に行き、さらにダン・ヤアンに行き、シドンに回った。

24:7 そしてツロの要塞に行き、ヒビ人やカナン人のすべての町に行き、ユダのネゲブへ出て行って、ベエル・シェバに至った。

24:8 彼らは全土を歩き巡り、九か月と二十日の後にエルサレムに帰って来た。

24:9 ヨアブは兵の登録人数を王に報告した。イスラエルには剣を使う兵士が八十万人おり、ユダの兵士は五十万人であった。

24:10 ダビデは、民を数えた後で、良心のと

がめを感じた。ダビデは【主】に言った。「私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。【主】よ、今、このしもべの咎を取り去ってください。私は本当に愚かなことをしました。」

24:11 朝ダビデが起きると、【主】のことがダビデの先見者である預言者ガドにあった。

24:12 「行ってダビデに告げよ。『【主】はこう言われる。わたしはあなたに三つのことを負わせる。そのうちの一つを選べ。わたしはあなたに対してそれを行う。』」

24:13 ガドはダビデのもとに行き、彼に告げた。「七年間の飢饉が、あなたの国に来るのがよいか。三か月間、あなたが敵の前を逃げ、敵があなたを追うのがよいか。三日間、あなたの国に疫病があるのがよいか。今、よく考えて、私を遣わされた方に何と答えたらよいかを決めなさい。」

24:14 ダビデはガドに言った。「それは私には非常に辛いことです。【主】の手に陥らせてください。主のあわれみは深いからです。私が人の手には陥らないようにしてください。」

人口を数えることがなぜ「罪」なのでしょう。それは主ではなく数を頼りにする思いから来ているからです。ダビデは自分自身の人生を顧みる時が来て、自分の功績に満足したかったのでしょうか。またはイスラエルの行く末に安心したかったのでしょうか。

しかしそれらを与え、守るのは神様なのです。私たちがまた自分の功績に満足し、今後に安心したいでしょう。しかしそれら数えたところで、安心な状況を見たところで、主の守りがなければ全く意味がないと気づく必要があります。

主はダビデとイスラエルに間違いをさせないために、ここでレッスンを与えられます。主の手に陥ることになりますが、大切な経験です。全ては主から与えられていると、感謝しつつ、理解しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 水曜

Ⅱサムエル

24:15 【主】は、その朝から定められた時まで、イスラエルに疫病を下された。ダンからベエル・シェバに至るまで、民のうち七万人が死んだ。

24:16 御使いは、エルサレムを滅ぼそうと手を伸ばした。【主】はわざわいを下すことを思い直し、民を滅ぼす御使いに言われた。「もう十分だ。手を引け。」【主】の使いは、エブス人アラウナの打ち場の傍らにいた。

24:17 ダビデは、民を打っている御使いを見たとき、【主】に言った。「ご覧ください。この私に罪があるのです。私が悪いことをしたのです。この羊の群れがいったい何をしたのでしょうか。どうか、あなたの御手が、私と私の父の家に下りますように。」

24:18 その日、ガドはダビデのところに来て、彼に言った。「上って行って、エブス人アラウナの打ち場に、【主】のために祭壇を築きなさい。」

24:19 ダビデは、ガドのことばにしたがって、【主】が命じられたとおりに上って行った。

24:20 アラウナが見下ろすと、王とその家来たちが自分の方に進んで来るのが見えた。アラウナは出て行き、地にひれ伏して、王に礼をした。

24:21 アラウナは言った。「なぜ、わが主、王は、しもべのところにおいでになったのですか。」ダビデは言った。「あなたの打ち場を買って、【主】のために祭壇を築きたい。そうすれば民への主の罰は終わるだろう。」

24:22 アラウナはダビデに言った。「わが主、王よ。お気に召す物を取って、お献げください。ご覧ください。ここに全焼のささげ物の



ための牛がいます。薪にできる打穀機や牛の用具もあります。

24:23 王よ、このアラウナはすべてを王に差し上げます。」アラウナはさらに王に言った。「あなたの神、【主】が、あなたを受け入れてくださいますように。」

24:24 しかし王はアラウナに言った。「いや、私は代金を払って、あなたから買いたい。費用もかけずに、私の神、【主】に全焼のささげ物を献げたくはない。」そしてダビデは、打ち場と牛を銀五十シケルで買った。

24:25 ダビデは、そこに【主】のために祭壇を築き、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。【主】が、この国のための祈りに心を動かされたので、イスラエルへの主の罰は終わった。

主に頼むよりも、自分の実績と持ちものに頼ろうとして、ダビデは失敗しました。その結果、主により頼まなければ無力なものに過ぎないということを知ったのですが、重要なのはその後です。ダビデは素直に非を認め、主を第一とする信仰を表しました。

王として、すばらしい信仰によってイスラエルを導き、数々の栄誉に輝いたダビデでしたが、その最期には失敗と回復が待っていました。聖書は決して偉人を神格化しません。人間はあくまでも神の前には不完全なものなのです。完全な存在は神様のみで、私たちは非を認めて悔い改めて、そして主に従うことです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 木曜

テトス



1:1 神のしもべ、イエス・キリストの使徒パウロから。——私が使徒とされたのは、神に選ばれた人々が信仰に進み、敬虔にふさわしい、真理の知識を得るため、
1:2 それは、偽ることのない神が永遠の昔から約束してくださった、永遠のいのちの望みに基づくものです。

1:3 神は、定められた時に、みことばを宣教によって明らかにされました。私はこの宣教を、私たちの救い主である神の命令によって委ねられたのです——

1:4 同じ信仰による、真のわが子テトスへ。父なる神と、私たちの救い主キリスト・イエスから、恵みと平安がありますように。

1:5 私があなたをクレタに残したのは、残っている仕事の整理をし、私が命じたとおりに町ごとに長老たちを任命するためでした。

1:6 長老は、非難されるところがなく、一人の妻の夫であり、子どもたちも信者で、放蕩を責められたり、反抗的であったりしないことが条件です。

1:7 監督は神の家を管理する者として、非難されるところのない者であるべきです。わがままでなく、短気でなく、酒飲みでなく、乱暴でなく、不正な利を求めず、

1:8 むしろ、人をよくもてなし、善を愛し、慎み深く、正しく、敬虔で、自制心があり、

1:9 教えにかなった信頼すべきみことばを、しっかりと守っていなければなりません。健全な教えをもって励ましたり、反対する人々を戒めたりすることができるようになるためです。

1:10 実は、反抗的な者、無益な話をする者、

人を惑わす者が多くいます。特に、割礼を受けている人々の中に多くいます。

1:11 そのような者たちの口は封じなければなりません。彼らは、恥ずべき利益を得るために、教えてはならないことを教え、いくつかの家庭をことごとく破壊しています。

1:12 クレタ人のうちの一人、彼ら自身の預言者が言いました。「クレタ人はいつもつき、悪い獣、怠け者の大食漢。」

1:13 この証言は本当です。ですから、彼らを厳しく戒めて、その信仰を健全にし、
1:14 ユダヤ人の作り話や、真理に背を向けている人たちの戒めに、心を奪われないようにさせなさい。

1:15 きよい人たちには、すべてのものがきよいのです。しかし、汚れた不信仰な人々には、何一つきよいものはなく、その知性も良心も汚れています。

1:16 彼らは、神を知っていると公言しますが、行いでは否定しています。彼らは忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。

パウロはクレタ島にテトスを残しましたが、それは彼を牧会の弟子として、訓練しつつ教会を指導させるためでした。そしてその教会にも様々な問題が起き、そのためにパウロはテモテに手紙を書いて励ましと指導を与える必要が生じたのでした。その意味で、この書簡は今でも教会の具体的な問題に対処するために有益な内容となっています。

「クレタ人は...悪い...」と、その地の人々を批判しているようですが、実際にクレタ人のことばなので、パウロは自己反省の意味として取り上げたのでしょう。部外者による偏見ではないのですが、ここでは甘い見方をしないようにとの警告の

ようです。一部のユダヤ人に関しても警戒を促しています。

私たちがまた人を見る時には、冷静に現実的に見ることも求められます。特に教会の働きにとって害となるなら、それは永遠の救いの害に繋がるのですから、警戒すべきです。何か最も大切で守るべきものを明確にするのも、主と人への愛の行いでもあるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 金曜

テトス

2:1 しかし、あなたは健全な教えにふさわしいことを語りなさい。

2:2 年配の男の人には、自分を制し、品位を保ち、慎み深く、信仰と愛と忍耐において健全であるように。

2:3 同じように、年配の女の人には、神に仕えている者にふさわしくふるまい、人を中傷せず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者であるように。

2:4 そうすれば、彼女たちは若い女の人に、夫を愛し、子どもを愛し、

2:5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、善良で、自分の夫に従順であるように諭すことができます。神のことばが悪く言われることのないようにするためです。

2:6 同じように、若い人には、あらゆる点で思慮深くあるように勧めなさい。

2:7 また、あなた自身、良いわざの模範となりなさい。人を教えることにおいて偽りがなく、品位を保ち、

2:8 非難する余地がない健全なことばを用いなさい。そうすれば、敵対する者も、私たちについて何も悪いことが言えずに、恥じ入ることになるでしょう。

2:9 奴隷には、あらゆる点で自分の主人に従って、喜ばれる者となるようにし、口答えせず、

2:10 盗んだりせず、いつも善良で信頼できることを示すように勧めなさい。それは、彼らがあらゆる点で、私たちの救い主である神の教えを飾るようになるためです。

2:11 実に、すべての人に救いをもたらす神の恵みが現れたのです。



2:12 その恵みは、私たちが不敬虔とこの世の欲を捨て、今の世にあって、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、

2:13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。

2:14 キリストは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです。

2:15 あなたは、これらのことを十分な権威をもって語り、勧め、戒めなさい。だれにも軽んじられてはいけません。

具体的な指導が書かれています。年配の男性と女性に対して、また若い人々への接し方がありません。このように教会の交わりには知恵が必要です。どのような人に導くのが問われます。また「模範」が教会には必要であることがわかります。牧師が模範であり、それに人々が倣うのです。

「奴隷」とあります。パウロは社会に奴隷がいることを肯定も否定もしていませんが、聖書的人間観によってヨーロッパ社会では奴隷がなくなり、また世界的にも奴隷が廃止されたのは、聖書的の教えによりました。ここでは奴隷制をテーマにしているのではなく、仕える立場の人もまた神様に従って生きると教えているのです。

自分自身の立場や生き方に照らし合わせて、教えられ、従ってみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 土曜

テトス



3:1 あなたは人々に注意を与えて、その人々が、支配者たちと権威者たちに服し、従い、すべての良いわざを進んでする者となるようにしなさい。

3:2 また、だれも中傷せず、争わず、柔和で、すべての人にもあくまで礼儀正しい者となるようにしなさい。

3:3 私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快樂の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。

3:4 しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、

3:5 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。

3:6 神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。

3:7 それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。

3:8 このことばは真実です。私は、あなたがこれらのことを、確信をもって語るように願っています。神を信じるようになった人々が、良いわざに励むことを心がけるようになるためです。これらのことは良いことであり、人々に有益です。

3:9 一方、愚かな議論、系図、争い、律法についての論争は避けなさい。それらは無益で、むなししいものです。

3:10 分派を作る者は、一、二度訓戒した後、

除名しなさい。

3:11 あなたも知っているとおりに、このような人はゆがんでいて、自分で悪いと知りながら罪を犯しているのです。

3:12 私がアルテマスかティキコをあなたのもとに送ったら、あなたは何とかして、ニコポリスにいる私のところに来てください。私はそこで冬を過ごすことにしています。

3:13 律法学者ゼナスとアポロが何も不足することがないように、その旅立ちをしっかりと支えてあげてください。

3:14 私たちの仲間も、実を結ばない者にならないように、差し迫った必要に備えて、良いわざに励むように教えられなければなりません。

3:15 私と一緒にいる者たちがみな、あなたによろしくとっています。信仰を同じくし、私たちを愛してくださっている人たちに、よろしく伝えてください。恵みがあなたにたがすべてとともにありますように。

「支配者たちと権威者たちに服し」とありますが、これは悪魔的な権力者の片棒を担ぐというような極端なことを言っているものではありません。通常私たちは社会的な責任を負っているのです。それを果たしなさいということです。私たちは「良いわざ」によって、神様の存在を示して社会を根底から変えることもできるのです。それも神様のご計画に従って導かれることです。

パウロはクレタの教会だけが祝福されることを望んでいませんでした。テトスはゼナスやアポロの伝道旅行を助けることは大変だったかもしれませんが、それによって彼の働きも祝福されたことでしょう。他の人の働きを助けることは喜びです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:1 ああ、ひとり寂しく座っている。人で満ちていた都が。彼女はやもめのようになった。国々の間で力に満ちていた者、もろもろの州の女王が、苦役に服することになった。
1:2 彼女は泣きながら夜を過ごす。涙が頬を伝っている。彼女が愛する者たちの中には、慰める者はだれもない。その友もみな裏切り、彼女の敵となってしまった。
1:3 悩みと多くの労役の後に、ユダは捕らえ移された。彼女は諸国の中に住み、憩いを見出すことがない。追い迫る者たちはみな追いついた。彼女が苦しみのただ中にあるときに。
1:4 シオンへの道は裏に服し、例祭に行く者はだれもない。その門はみな荒れ果て、その祭司たちはうめく。おとめたちは憂いに沈む。シオンが苦しんでいるのだ。
1:5 彼女に逆らう者がかしらとなり、彼女の敵が栄えている。彼女の多くの背きのゆえに、
【主】が憂いを与えられたのだ。幼子たちも、捕らわれの身となり、逆らう者の前に行行った。
1:6 娘シオンから、そのすべての輝きが去った。彼女の首長たちは、青草を見出せない鹿のようになり、追い迫る者の前をただ力無く歩んで行った。
1:7 エルサレムは思い出す。苦しみとさすらいの日々であって、昔から持っていた自分のすべての宝を。その民が敵の手に倒れ、だれも助ける者がいないとき、敵はその破滅を見て、あざ笑う。
1:8 エルサレムは罪に罪を重ねた。そのため、汚らわしいものとなった。彼女を尊んだ者たちはみな、その裸を見て、これを卑しめる。

彼女もうめいて、その背を向ける。
1:9 彼女の汚れは裾に付いている。彼女は自分の末路を考えない。それで、驚くほど落ちぶれて、だれも彼女を慰めない。
「【主】よ、私の苦しみを顧みてください。敵が勝ち誇っています。」
1:10 敵は、彼女が宝としているものすべてにその手を伸ばした。諸国の民がその聖所に入るのを彼女は見た。あなたの集いに加わってはならないと、あなたが命じた者たちが。
1:11 彼女の民はみなうめき、食べ物を探している。気力を取り戻そうとして、自分の宝を食物に換えている。「【主】よ、よく見てください。私は卑しい女になりました。」

哀歌のテーマは認罪、すなわち罪を認めることです。それを促すのは、ここでは苦難ですが、本来は苦難などなくても自分の罪に気付くべきでしょう。しかし、苦難の中でさえも罪に気づかない人がいることを思うなら、この苦難を通して罪に気づくのなら、そこに回復の希望があるのです。今の私たちにとっては、認罪は聖霊によって可能です。聖霊によらなくては罪を認めることはできないのです。ですからこの哀歌を読むときは、聖霊に頼って読みましょう。そのとき、罪の報いの恐ろしさと、神の恵みの回復の希望をバランスよく教えていただけるはずです。
1節から預言者は罪ゆえに荒廃したエルサレムの様子を嘆いています。私たちのたましいがどのように荒廃したところがないか、聖霊にさぐっていただきましょう。そして主の憐れみを求めることはできますから、「主よ...よく見てください。」と求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

